

第1章

我が国の自殺の現状

1 自殺者数の推移

自殺者数の推移をみると、第二次世界大戦後は、高度成長期やバブル期に減少する一方、昭和30年前後（29年～35年）、60年前後（58年～62年）、そして平成10年以降に三つの山を形成している。

自殺者数の推移について厚生労働省の人口動態統計（以下「人口動態」という。）によれば（第1-1-1図）、昭和33年の2万3,641人をピークとする最初の山を形成した後、40年代前半の高度成長期には1万4千人台前半まで減少し、その後2万人前後で推移した。次いで、61年の2万5,667人をピークとする二つ目の山を形成した後、平成3年に1万9,875人にまで減少し、その後2万人台前半で推移していたが、平成10年は、9年の2万3,494人から、8,261人（35.2%）増加して3万1,755人となった。その後も15年にはこれまで最多の3万2,109人となり、18年は2万9,921人で、前年に比べ632人（2.1%）減少したものの、9年連続して3万人前後の状態が続いている。

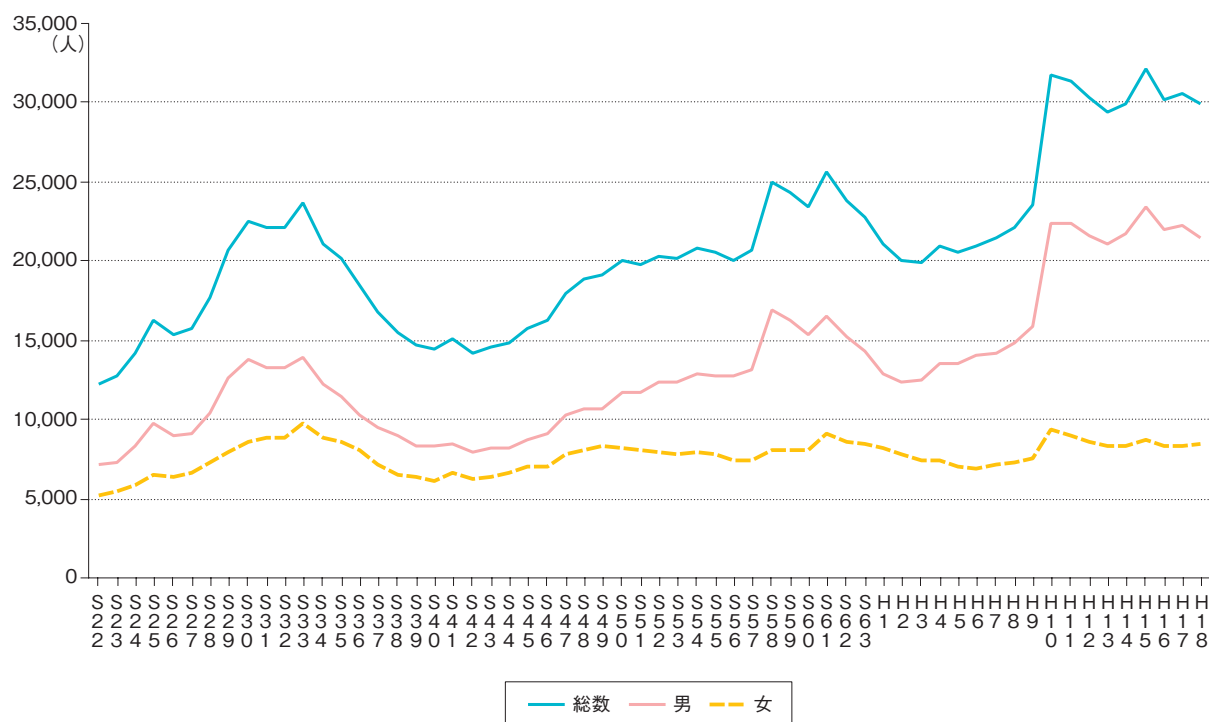
男女別に見ると、男性については、総数と増減の動きは一致しており、昭和30年前後に33年の1万3,895人をピークとする山、60

年前後に61年の1万6,499人をピークとする山、平成10年以降の山と三つの山を形成している。平成10年は、9年の1万5,901人から、6,448人（40.6%）増加して2万2,349人となった。15年にはこれまでで最多の2万3,396人となり、18年は2万1,419人で、前年に比べ817人（3.7%）減少したものの、9年連続して2万人を超える状態が続いている。

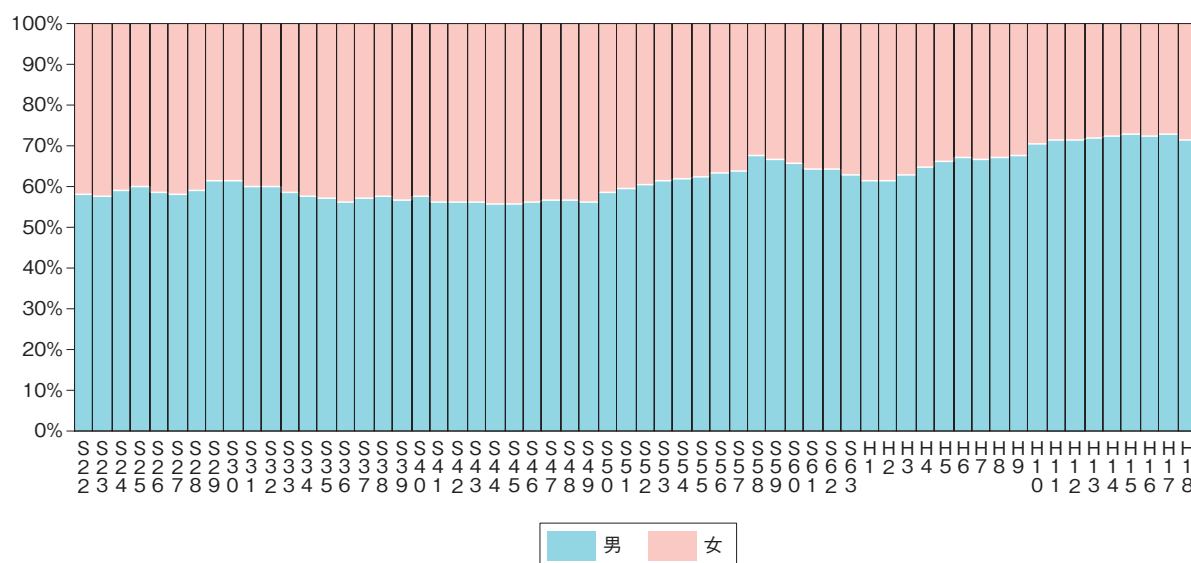
女性については、昭和30年前後に33年の9,746人をピークとする山を形成しているものの、その後は、昭和61年の9,168人を除き、6千人台前半から8千人台の小幅な変動で推移した。平成10年は、9年の7,593人から、1,813人（23.9%）増加して9,406人となったが、その後、11年の9,011人を除き、8千人台で推移しており、18年は前年に比べ185人（2.2%）増加して8,502人となっている。

男女別の自殺者数の構成比の推移をみると（第1-1-2図）、自殺者数が山を形成している時に男性の占める割合が高まる傾向が続いている。自殺者数が急増した平成10年には、男性の占める割合が初めて7割を超えて70.4%となり、以後、18年の71.6%まで男性が7割を超える状態が続いている。

[第1-1-1図] 自殺者数の推移(人口動態統計)



[第1-1-2図] 自殺者数の男女別構成比の推移

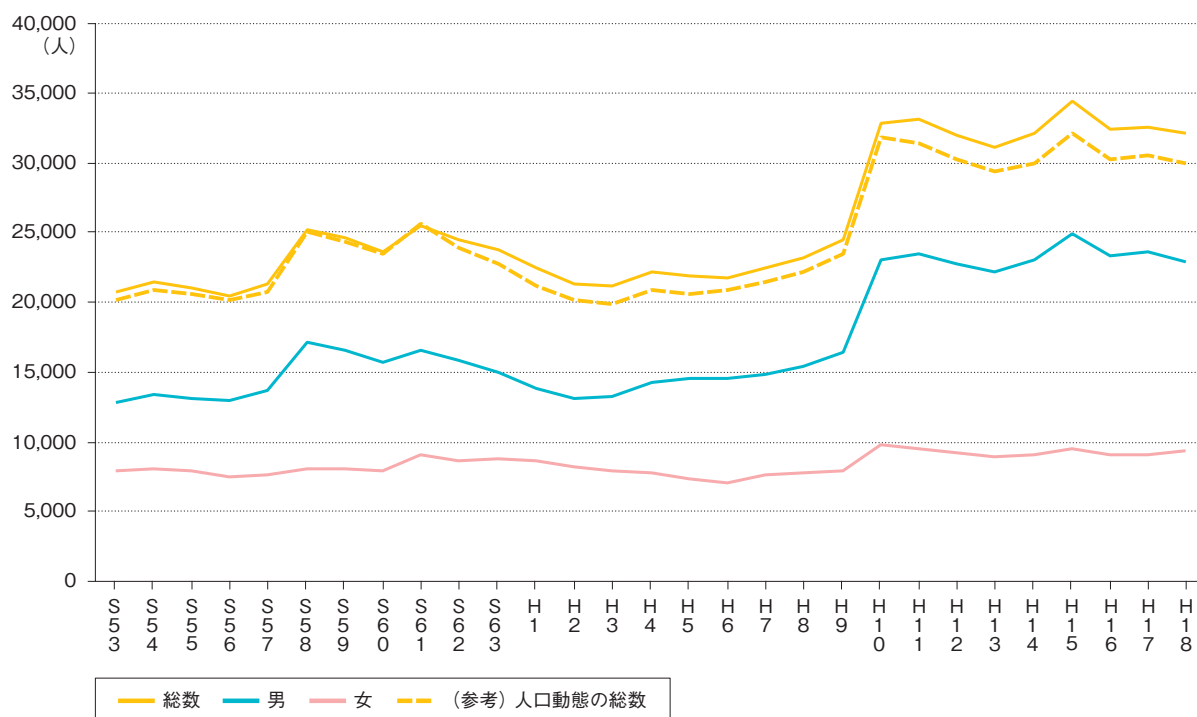


次に、警察庁の自殺の概要資料（以下「自殺の概要」という。）によれば（第1-1-3図）、調査対象範囲、計上時点の違い等^{※1}により、平成18年で人口動態の自殺者数を2,234人上回るが、増減の傾向は一致している。最近では、平成10年は、9年の2万4,391

人から、8,472人（34.7%）増加して3万2,863人となった。15年には統計を取り始めた昭和53年以降で最多の3万4,427人となり、18年は3万2,155人で、前年に比べ397人（1.2%）減少したものの、9年連続して3万人を超える状態が続いている。

（※1）人口動態と自殺の概要との自殺者数の違いについては9ページ参照

【第1-1-3図】自殺者数の推移(自殺の概要資料)



資料：警察庁「自殺の概要資料」

2 自殺死亡率の推移

人口10万人当たりの自殺者数（以下「自殺死亡率」という。）をみると、自殺者数と同時期に低下する一方で、同じ時期に三つの山を形成している。

自殺死亡率の推移について人口動態によれば（第1-1-4図）、昭和33年の25.7をピークとする最初の山を形成した後、40年代前半に15を下回る水準にまで低下し、その後15～18の間で推移した。次いで、61年の21.2をピークとする二つ目の山を形成した後、16～18の間で推移していたが、平成9年の18.8から10年に25.4と急上昇し、以後18年の23.7まで25前後の高い水準が続いている。この期間で自殺死亡率が最も高いのは、自殺者数がこれまでで最多の平成15年の25.5ではなく、昭和33年の25.7がやや上回っている。

男女別に見ると、男性については、最初の二つの山でピークの時期が異なるものの、総数と同様の傾向を示している。昭和30年の31.5をピークとする最初の山を形成した後、

42年に16.2まで低下し、その後20～22の間で推移した。次いで、58年の28.9をピークとする二つ目の山を形成した後、再び20台前半で推移していたが、平成9年の26.0から10年に36.5と急上昇し、以後18年の34.8まで35前後の高い水準が続いている。この期間で自殺死亡率が最も高いのは、平成15年の38.0であり、男性の場合、現在、戦後最も高い水準にある。

女性については、男性に比べ一貫して低い水準で推移している。昭和30年前後に33年の20.8をピークとする山を形成しているが、それ以降は49年に15.0、61年に14.9とやや上昇したものの、ほぼ横ばいで推移している。平成9年の11.9から10年に14.7と上昇したが、男性ほどの大きな変動はみられず、18年は13.2となっている。この期間で自殺死亡率が最も高いのは、総数と同じ昭和33年の20.8となっている。